

除草2-2. 小麦除草剤

| HRAC コード | 成分名 | 商品名 | 多年生雑草 | 一年生雑草 | 一年生雑草(ツユクサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く) | 一年生雑草(イネ科を除く) | 一年生広葉雑草 | スズメノテツポウ | 県推奨使用時期 | 備考 |
|--------------|---------------------------|---------------|------------|-------|--------------------------------|---------------|---------|--------------------------------|------------------------------------|---|
| 9 14 | グリホサートイソピルアミン塩・ピラフルフェンエチル | サンダーボルト007(普) | ○ | ○ | | | | | 耕起前(雑草生育期) | |
| | | | | ○ | | | | | は種後出芽前(雑草生育期) | |
| 9 | グリホサートカリウム塩 | タッチダウンiQ(普) | ○ (イネ科) | | | | | | 耕起3日以前(雑草生育期) | |
| | | | | ○ | | | | | 耕起又はは種前(雑草生育期) | |
| | | | | | | | | | は種後出芽前(雑草生育期) | |
| | | | | | | | | | 適用場所: 圃場内の周縁部 雑草生育期(但し、収穫3日前まで) | |
| 15 3 5 | ベンチオカーブ・ベンディメタリン・リニュロン | クリアターン乳剤(普) | | ○ | | | | | は種直後(雑草発生前) | ①砂質、排水不良、散播ほ場での使用は避ける。 ②排水不良田や過湿状態での使用は葉害の発生を招くので避ける。 ③トゲミノキツネノボタンに対してある程度効果あり。 |
| 12 3 | ジフルフェニカン・トリフルラリン | ガレース乳剤(普) | | ○ | | | | | は種後出芽前(雑草発生前) | ①排水不良の水田、処理後に多雨が予想されるときは使用を避ける。 ②砂質土壌では麦1~2葉に白化症状が発生するので、少ない薬量を使用する。 ③散布液の飛散や流失によって他作物(キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、レタス、ホウレンソウ、ダイコン等)に葉害が生じるので、このようなおそれがある所では使用しない。 ④水産動物にに影響を及ぼすので、養殖地などの周辺では使用を避ける。 ⑤カラスノエンドウに対する効果が期待できる。 ⑥ガレースG(粒剤)あり。 |
| 15 5 | プロスルホカルブ・リニュロン | ムギレンジャー乳剤(普) | | ○ | | | | | は種後出芽前(雑草発生前) | ①本剤は後作物に対して影響を及ぼすことがあるので注意する。特に、あぶらな科、ウリ科、なす科及びまめ科の作物は影響を受けやすいので、本剤処理後3ヶ月以内にこれらを後作物として栽培しない。 ②散布の際には、隣接作物にかかることと葉害を生じるので、散布液がかからないよう注意して散布する。特に風の強い時の使用はさける。 ③激しい降雨が予想される時や、水はけが悪く、冠水、浸水しやすい畑では葉害のおそれがあるので使用をさける。 ④砂壤土では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。 ※ 少量散布の場合は専用ノズルを使用し、土壌の全面に均一に散布すること。 |
| 15 12 | エスプロカルブ・ジフルフェニカン | パンパン乳剤(普) | | ○ | | | | | は種後出芽前(雑草発生前) | ①水田裏作の小麦に使用する場合、排水不良田など土壌が過湿な条件では、砕土や覆土が不十分となり、効果むらや葉害の原因となる場合があるので使用は避ける。 ②播種深度が浅い場合、葉害を生ずる場合があるので使用しない。 ③散布の際には、隣接作物にかかることと葉害を生じるので、散布液がかからないよう注意して散布する。特に風の強い時の使用はさける。 ④処理後に大量の降雨が予想される場合は使用しない。 ⑤砂壤土では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。 |
| | | | | | | | | | 出芽直後~小麦2葉期(雑草発生初期まで) | |
| 3 | ベンディメタリン | ゴーゴーサン乳剤(普) | | ○ | | | | | は種後(雑草発生前)~小麦2葉期(イネ科雑草1葉期まで) | ①水田裏作の麦に使用する場合、排水不良の畑では使用をさける。 ②土壌を細かく砕き、ていねいに整地し、種子が露出しないように注意する。 汎用除草剤の項参照 |
| 5 15 | プロメトリン・ベンチオカーブ | サターンパアロ粒剤(普) | | ○ | | | | | は種後~出芽前(雑草発生前) | 薬害を生じる恐れがあるので砂壤土で使用する場合は下限薬量で使用する。 |
| | | | | | | | | 生育初期(小麦の4葉期まで、スズメノテツポウ1.5葉期まで) | | |
| 12 15 | ジフルフェニカン・フルフェナセット | リベレーターG(普) | | ○ | | | | | は種後~麦2葉期(雑草発生前~イネ科雑草1葉期まで) | 砂質土壌での使用は葉害を生じる恐れがあるので避ける。 |

除草2-2. 小麦除草剤

| HRAC コード | 成分名 | 商品名 | 多年生雑草 | 一年生雑草 | 一年生雑草（イネ科を除く） （リグサ、キク・アブラナ科を除く） | 一年生雑草（イネ科を除く） | 一年生広葉雑草 | スズメノテツボウ | 県推奨使用時期 | 備考 |
|-------------|-------------------|--------------------|-------|-------|------------------------------------|---------------|---------|----------|----------------------------|--|
| 12 15 | ジフルフェニカン・フルフェナセット | リペレーターフロアブル（普） | | ○ | | | | | は種後～麦3葉期（雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで） | 砂質土壌での使用は葉害を生じる恐れがあるので避ける。 |
| 15 | プロスルホカルブ | ボクサー（普） | | ○ | | | | | は種後～麦4葉期（雑草発生前～発生初期） | ①土壌が極端に乾燥していると除草効果が劣ることがあるので、希釈水量を多めに散布するか、土壌が適度な水分を含んでいるときに散布する。 ②砂土での使用は避ける。 ③本剤の使用により、一過性の葉害（黄斑、縮葉）を生ずることがあるが、その後の生育に影響はない。 ④砕土、整地はできるだけいねいに行い、種子が露出しないように覆土はできるだけいねいに行う。 ⑤麦類に使用する場合、次のような条件下では葉害が生ずるおそれがあるため使用を避ける。 ・水田裏作の排水不良の畑 ・散播栽培で覆土を行わない場合 |
| 2 | チフェンスルフロンメチル | ハーモニー75DF水和剤（普） | | | | | ○ | ○ | は種期～節間伸長前 | ①散布液の飛散や流失によって他作物（タマネギ、ハクサイ、ダイコン、ホウレンソウ等）に葉害が生じるので、このような恐れがある所では使用しない。 ②微量で一部の作物に対し、非常に高い活性を示すので、薬剤散布後の器具の洗浄は、散布後出来るだけ早く、消石灰を使った規定の方法で必ず実施する。 ③降雨直前の散布を避ける。 ④除草効果の発現が遅い。 ⑤雑草が完全枯死に至らず、春先に再生してくることもある。 ⑥展着剤は使用しない。 ⑦SU剤 |
| 6 | ペンタゾンナトリウム塩 | バサグラン液剤（ナトリウム塩）（普） | | | | ○ | | | 生育期（但し、収穫45日前まで） | |